

副官ヨリ山口縣立小郡農業學校
長宛通牒案 (連連便)

陸普

三月二十日附發第一六七六號ヲ以テ首
題ノ件ニ関シ申請相成リタル處貴
校第二部ハ兵役法施行令第百條第
一號ニ規定スル實業學校トシテ在學
徵集延期ノ資格ヲ有スル次第ニ付承
知相成度

陸普第一八一五號

昭和七年三月廿六日

昭和七年三月廿六日

三四六

號

山口縣立小郡農業學校

卷第六十六號



昭和拾七年三月二十日

山口縣立小郡農業學校長 堀田喜滿



陸軍大臣 東條英機 殿

兵役徵集延期認可願

本校第二部(獸医科)在學者者ニ對シテ兵役法施行
令第百條第三號、別科トシテ兵役上ノ在學徵集
延期御認可相成度關係書類相添ヘ此段及申請
候也

第二部 獸醫科入學の要

昭和十六年八月

山口縣立小郡農業學校

所在地 吉敷郡小郡町
電話 小郡三六番

第二部 獸醫科教育目的

獸醫師たりんきする者に須要なる教育を施すを以て目的とし

入學志願者資格

- 第一 部に入學することを得るものは身体健全、品行方正にして左の各號の一に該当するものたり
- 2、尋常小學校卒業程度を以て入學資格とする。修業年限五箇年以上の實業學校又は之と同程度以上の實業學校を卒業したるもの
- 2、師範學校卒業業者
- 3、中學校卒業業者
- 4、前各號に準ずべきものにて相當の学力ありと認めたる者

修業年限

第二部は修業年限を二年とし、

募集人員

本年度募集人員 約二十名

入學許可否

- 一、考査期日 三月十八日、十九日(午前八時三十分迄に出頭すべし)
- 二、考査場所 本校
- 三、携帶品 筆記具、小刀、辨當

入學許可の者

三月四日百近に通知す

入學期日

三月下旬

學費概算

通學生 九圓也
全生 貳拾四圓也
内譯

授業料 参圓
校友會費及 壹圓
實習費等

本校は山口縣立小郡農業學校

第二部 獸醫科入學の要

昭和十六年八月
山口縣立小郡農業學校
所在地 吉敷郡小郡町
電話 小郡三六番

第二部 獸醫科教育目的

獸醫師たりんんする者に須要なる教育を施すを以て目的とし

入學志願者資格

- 第一部に入學することを得るものは身体健全、品行方正にして左の各號の二に該當するものたり
- 尋常小學校卒業程度を以て入學資格とする修業年限五箇年以上の實業學校又は之と同程度以上の實業學校を卒業したるもの
- 師範學校卒業業者
- 中學校 卒業業者
- 以前各號に準ずべきものにて相當の学力ありと認めらる者

修業年限

第二部は修業年限を二箇年とする

募集人員

本年度募集人員 約二十名

入學志願手續

所定の用紙に入學願書及履歷書を認め之れに手数料として山口縣收入證執武國五郎付左記書類と共に三月二十五日迄に本校に到着する様に提出すべし

- 一、戸籍謄本
- 二、卒業證書の寫又は卒業見込の證明書
- 三、出身學校長成績證明書 (交付期日中道書本)
- 四、最近撮影半身手札形寫真 (一枚)

志願者心得

- 一、志願者に對し左記審査を行つて選抜す
- 二、出身學校長成績證明書
- 三、人物 考查
- 四、身体検査

- 二、考査期日 三月十八日、十九日(午前八時三十分迄に出頭すべし)
- 三、考査の場所 本校
- 四、携帶品 筆記具、小刀、辨當

入學許否

入學期日

追而通知す

學費概算 (一月分)

- 通學生 九圓也
- 舍 生 貳拾四圓也
- 内 膳 一
- 授業料 參圓
- 學友會費及 參圓
- 實習費 參圓

修學旅行費貳圓 (大陸方面見學視察)

食舍費 拾五圓 (旅行費あり)

其の他

獸醫科卒業生の將來
滿洲國建國以來彼地の畜産開発は拍車を加へて躍進の途を辿りつゝ、且つ又今畜産に於て内地の馬政計畫馬匹改良方針等は國防上重大なる問題となり、引いて滿洲國に於ける軍馬資源の培養に積極的援助を加へ、軍所需の有能馬の供給を益々潤澤ならしめんとす。計畫の樹立を見たり、斯く内外共に劃期的畜産國策の實施により、必然要求せる、獸醫師の將來は誠に有望なることを候。現に大陸方面より来る採用申込は殺殺して其の需に應ずると得ざる状況あり、且つ又陸軍獸醫官たるの途元より開かる。

第二章 學年、學期及休業日

第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
第七條 學年ヲ分チテ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十
一日迄第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日迄第三學期ハ翌年
一月一日ヨリ三月三十一日迄トス
第八條 特別實習訓練日並ニ休業日左ノ如シ但シ休業中必要ニ應ジ
適宜實習ヲ課スルコトヲ得
一、祝日 大祭日
二、日曜日
三、春季休業三月二十五日ヨリ四月七日迄
四、夏季特別實習訓練七月二十一日ヨリ八月三十一日迄但シ訓練
期間中學校長ハ必要ニ應ジ適宜休暇ヲ與フル事ヲ得
五、冬期休業十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄

第四章 入學、退學及懲戒

第九條 生徒ヲ入學セシムベキ時期ハ學年ノ始トス
第十條 本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全品行方正ニシテ左
ノ各號ノ一ニ該當スル者タルベシ
本 科
一、年齡滿十四歲以上ニシテ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業
シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者
第二部
一、實業學校ヲ卒業シタル者但シ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入
學資格トスル修業年限五箇年高等小學校卒業程度ヲ以テ入學
資格トスル修業年限三箇年
二、師範學校又ハ中學校ヲ卒業シタル者
三、前各號ニ準ズベキ者ニシテ相當ノ學力アリト認メタル者
第十一條 第一學年入學志願者中修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒
業セザル者ニ就キテハ試験ニ依リ其學力ヲ檢定スベシ
前項ノ試験ハ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ修業年限二箇
年ノ高等小學校ノ程度ニヨリ之ヲ行フ
第十二條 入學ノ許可ハ小學校長其他學校長ノ報告、人物考査及身
體檢査ニ依リ決定ス
第十三條 入學志願者ハ入學考査手数料金貳圓ヲ納付スベシ一旦納
付シタル入學考査手数料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セズ
第十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許スベキ者ハ相當年齡ニ達シ且ツ
相當ノ學力ヲ有スル者タルベシ
第十五條 退學シタル者再入學ヲ志願シタルトキハ學校長ハ同一學
年以下學年ニ限リ入學許可スルコトヲ得
第十六條 他ノ同一程度ノ農業學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキ
ハ學校長ハ正當ノ理由アリト認メタル場合ニ限リ之ヲ許可スルコ
トヲ得
他ノ同一程度ノ農業學校生徒ニシテ本校ニ轉學ヲ志望スル者アル
トキハ學校長ハ當該學校ニ於テ其ノ操行及學力ヲ證明シタル者ニ
限リ試驗ノ上相當學年ニ編入スルコトヲ得
第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人連署ヲ以テ誓約書ヲ學校
長ニ差出スベシ
保證人ハ生徒ノ親權者若ハ後見人タルベシ
前項保證人學校ヨリ一里以外ニ居住スルトキハ副保證人ヲ定ムル
副保證人ハ可成學校ニ近ク居住シ學校長ニ於テ適宜ト認メタル者
タルベシ
保證人ハ被保證人ヲシテ能ク校則ヲ格守セシメ且其ノ身上ニ係ル
一切ノ事件ニ付責務ヲ有ス
第十八條 學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更
セシムルコトヲ得
第十九條 生徒及保證人左ノ場合ニ於テハ速ニ學校長ニ届出ヅベシ
(一)氏名ヲ變更シタルトキ (二)住所若クハ宿所ヲ變更シタルトキ
(三)改印シタルトキ
第二十條 第十七條ノ手續ヲ爲サザル者又ハ第十八條ノ命ヲ背セザ
ル者アルトキハ學校長ニ於テ該生徒ノ入學許可ヲ取消シ若クハ退
學ヲ命ズルコトヲ得
第二十一條 一、生徒疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ニ因リ退學又ハ
轉學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ學校長
ノ許可ヲ受クベシ
第二十二條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ退學ヲ命ズ
一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三、引續キ一箇年以上缺席シタル者

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
五、出席常ナラザル者
第二十三條 生徒不良ノ行爲アリタルトキハ學校長ニ於テ懲戒處分
ヲ行フ其ノ處分ハ謹慎停學ノ三種トス
前項ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ旨ヲ保證人ニ通知スベシ
第五章 課程ノ修了及卒業
第二十四條 課程ノ修了及卒業ヲ認ムルニハ操行實習及學業成績ヲ
考査シテ之ヲ定ム
第二十五條 生徒ノ學業成績ハ平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム
第二十六條 學校長ハ課程ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ
授與スベシ
第二十七條 卒業證書ノ書式左ノ如シ

卒業證書
何府縣 氏名
年 月 日生
本校何部科ノ課程ヲ修メ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍
テ之ヲ證ス
年 月 日
番 號
山口縣立小郡農業學校長位勳功位爵氏 名 圖

第六章 授業料

第二十八條 授業料ハ一箇月金參圓トシ一月、四月ニ在リテハ其ノ
月十五日限リ其ノ他ノ月ニ在リテハ其ノ月五日限リ當月分ヲ納付
スベシ
第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收
セズ
一、休業全月ニ亘ルトキ
二、傳染性ヲ有スル疾病ノ爲出席停止全月ニ亘ルトキ
三、休業全月ニ亘ルトキ
第三十條 授業料ノ納付ヲ怠リタルモノハ其ノ完納ニ至ル迄授業ヲ
停止ス

第七章 寄宿舍

第三十一條 生徒ハ自宅ヨリ通學スル者ノ外寄宿舍ニ入ルベキモノ
トス但シ學校長ノ許可ヲ受ケ親族等ノ居宅ヨリ通學スルコトヲ得
第八章 雜 則
第三十二條 學校長ハ建物、栽植物、器物ヲ毀損又ハ亡失シタル生
徒ニ對シテハ之ヲ辨償セシムルコトヲ得
第三十三條 本則施行ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム
第九章 附 則

第三十四條 本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十五條 本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其
ノ程度ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄從前ノ規定ヲ斟酌シテ之ヲ施
行ス
大正九年二月山口縣令第六號改正
大正十年一月山口縣令第四號ハ四月一日ヨリ施行ス
大正十二年二月山口縣令第八號ハ四月一日ヨリ施行ス
大正十二年十二月山口縣令第九十九號ハ公布ノ日ヨリ施行ス
大正十三年三月山口縣令第二十一號附則
本令ハ大正十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ施行ノ際現ニ在學スル者ニ在學スル者ノ修業年限學科課程
及每週教授時數ニ關シテハ其卒業ニ至ル迄從前ノ規定ニ依ル
昭和二年三月十一日山口縣令第二十六號附則
本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從
前ノ規定ニ依ル但シ其ノ授業料ニ關シテハ本令ノ規定ニ依ル
昭和三年二月縣令第七號ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十五號
ノ規定改正ニ關シテハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和六年縣令第十九號ハ四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和九年三月縣令第十七號ハ四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十四年四月山口縣令第二十五號ハ四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十五年四月山口縣令第 號ハ 月ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ畜産科ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其程
度ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄從前ノ規定ニ依ル
昭和十六年四月山口縣令第 號ハ 月ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ養蠶科ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其ノ
程度ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄從前ノ規定ニ依ル

山口縣立小郡農業學校學則

山口縣立小郡農業學校規則

昭和十六年四月一日改正施行

第一章 總則

- 第一條 本校ハ農業學校規程ニ依リ農業養蠶業及畜産業ニ従事セムトスル者並ニ獸醫師タラムトスル者ニ須要ナル教育ヲナスヲ以テ目的トス
第二條 本校ニ本科及第二部ヲ置ク
本科ヲ分チテ農科、農蠶科及獸醫科トス
第二部ハ獸醫科トス
第三條 本校ノ修業年限ハ本科ハ三年第二部ハ二年トス
第四條 生徒ノ定員ハ本科五百七十人第二部四十人補習科若干名トス

第二章 學科課程及教授時數

第五條 各科ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ
但シ實習上ノ都合ニヨリ其ノ時數ヲ減縮スルコトヲ得

農科學科課程及每週教授時數表

Table with columns for Subject (學科目), Year (學年), and Class (課程). Rows include Physical Education (修身), Civic Education (公民科), Language (國語), History (歴史), Geography (地理), Mathematics (數學), Chemistry (化學), Biology (生物), Botany (園藝), Agriculture (農學), Soil Science (土壌學), Entomology (昆蟲學), Veterinary (獸醫), and various practical courses (實習).

農蠶科學科課程及每週教授時數表

Table with columns for Subject (學科目), Year (學年), and Class (課程). Rows include Physical Education (修身), Civic Education (公民科), Language (國語), History (歴史), Geography (地理), Mathematics (數學), Chemistry (化學), Biology (物理), Botany (園藝), Agriculture (農學), Soil Science (土壌學), Entomology (昆蟲學), Veterinary (獸醫), and various practical courses (實習).

獸醫學科課程及每週教授時數表

Table with columns for Subject (學科目), Year (學年), and Class (課程). Rows include Physical Education (修身), Civic Education (公民科), Language (國語), History (歴史), Geography (地理), Mathematics (數學), Chemistry (物理), Biology (化學), Anatomy (解剖), Physiology (生理), Pharmacology (藥學), Pathology (病理), and various practical courses (實習).

第二部(獸醫科)學科課程及每週教授時數表

Table with columns for Subject (學科目), Year (學年), and Class (課程). Rows include Physical Education (修身), Civic Education (公民科), Language (國語), History (歴史), Geography (地理), Mathematics (數學), Chemistry (物理), Biology (化學), Anatomy (解剖), Physiology (生理), Pharmacology (藥學), Pathology (病理), and various practical courses (實習).



東京市
陸軍省
御中

親展

山口縣立小郡農業學校長 堀田喜滿

昭和十七年 三月二十日

山口縣吉敷郡小郡町
電話 三六番

代 亭

第一號

三月一日



閱



拾年保

陸軍省 第一三三號

救本密第二九號ノ三

昭和十七年三月二十五日

日本赤十字社社長公爵

徳川 園

生務課員

陸軍大臣 東條英機 殿

大東亞戰爭海軍衛生勤務補助ノ爲實施セル救護班派遣ニ關シ別紙ノ
通報告候也



日本赤十字社

救護班派遣（海軍關係）
 海軍大臣、命ヲ承ケ救護班四個ヲ海軍病院ニ増加配屬セ
 リ、其ノ細別左表ノ如シ

救護班派遣區分表

救護班名	編成擔任支部	編制人員		配屬部隊	配屬部隊到着月日
		書記	看護婦使丁計		
第三四五	福岡	一	一	佐世保海軍病院 (諫早病舎勤務)	二月二十四日
第三四六	熊本	一	一	横須賀海軍病院	三月二十五日
第三四七	佐賀	一	一		二月二十五日
第三四八	埼玉	一	一		
計		三	三		

備考

昭和十七年二月末日迄ニ海軍ニ派遣セル救護班二十二個、其ノ所要人員（補充員共）九百一十一名ナリ

第 二 號

2

保存期限 三年
 決裁指定
 局長 委任
 決行指定

政務次官 回付
 決裁前後連帶
 參與官 馬政

拾年保

受領番號 壹第六四二號
 起元廳(課)名 帝國軍用犬協會
 件名 第二回軍用鍛鍊犬競走大會後援ノ件

決行(決裁)後
 回覽課名

陸軍省
 17.3.1
 馬政課

大臣		局長 主務		次官		政務次官	
局長 主務		高級副官		參與官		書記官	
主務課員		主務副官		審案		審記者	
局長		局長		局長		局長	
課長		課長		課長		課長	
了結		領受		出提		領受	
昭和三十九年三月五日		昭和三十九年三月三日		昭和三十九年三月三日		昭和三十九年三月三日	
房官大臣		主務局長		主務局長		主務局長	

大平

委

參與官

大平

大平

書記官

主務課員

主務副官

審案

審記者

水清

馬政

馬政

陸軍省 副官ヨリ社団法人帝國軍用犬協會々長香月清司へ通牒

二月十七日附軍犬協第四五號ヲ以テ願出ニ係ル首題ノ件許可セラレタルニ付承知相成度

陸普第一二六六號 昭和拾七年參月參日

陸軍省後援名義使用方ノ件

副官ヨリ憲兵司令部本部長ノ東京憲兵隊長(憲司經由)へ通牒

左記催ニ對シ陸軍省後援名義使用方許可セラレタルニ付依命通牒ス

左記 陸普第一二六六號

昭和拾七年參月參日

一、名稱 第二回軍用鍛鍊犬大競走大會

一、會場 小石川後樂園野球場

一、日時 三月十五日(雨天順延)

一、主催 社団法人帝國軍用犬協會



陸軍省 第六四二

軍犬協發第四五號

後援名儀借用方

昭和十七年二月十七日

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十七年三月十五日（日曜）東京市小石川區後樂園野球場ニ於テ本協會主催ノ下ニ別紙規程ニ基キ第二回軍用鍛練犬競走大會ヲ開催仕候

就テハ現下軍用犬鍛練ノ重要性ニ鑑ミ同會ヲシテ尙一層意義ヲシムル目的ヲ以テ貴省後援ノ名儀借用致度被存候間認可賜度此段及申請候也



Vertical text on a slip of paper, possibly a receipt or administrative note, including a rectangular stamp.



社団法人 帝國軍用犬協會

出願書第六四三

軍犬協發第四五號

後援名儀借用方申請ノ件

昭和十七年二月十七日

社団法人帝國軍用犬協會
會長 香港 月 清

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十七年三月十五日（日曜）東京市小石川區後樂園野球場ニ

於テ本協會主催ノ下ニ別紙規程ニ基キ第二回軍用鍛練犬競走大

會ヲ開催仕候

就テハ現下軍用犬鍛練ノ重要性ニ鑑ミ同會ヲシテ尙一層意義ヲ

ラシムル目的ヲ以テ貴省後援ノ名儀借用致度被存候間認可賜度

此段及申請候也



後援方取計ハレ度
二月二十三日
報道部

兵務局馬政課



社團帝國軍用犬協會

第二回軍用鍛鍊犬競走大會規程

第一條 本規程ハ第二回軍用鍛鍊犬競走大會ニ關スル事項ヲ定ムルモノトス

第二條 本大會ハ軍用犬ノ鍛鍊ヲ獎勵スルコトヲ目的トシ、併セテ良好ナル體型、體質、稟性ヲ兼備セル軍用犬ノ作出ニ資セントス

第三條 本大會ノ開催場所及期日ヲ左ノ如ク定ム

開催場所 東京・小石川・後樂園野球場

開催期日 昭和十七年三月十五日(日) 雨天順延

第四條 本大會ニ出場シ得ベキモノハ會員所有ノ登録犬ニシテ左ノモノニ限ル

シエパード犬	體高 體重	牝 牡	體高 體重
	牝 牡	體高 體重	牝 牡
ドーベルマン	體高 體重	牝 牡	體高 體重
ピンシエル	體高 體重	牝 牡	體高 體重
エアデール	體高 體重	牝 牡	體高 體重
テリヤール	體高 體重	牝 牡	體高 體重

第五條 參加希望者ハ所定ノ様式(附表第二)ニ據ル參加申込書ニ參加料ヲ添ヘ三月一日迄ニ本部ニ到着スル如ク提出ス

ルモノトス、期限後ノ申込ハ受理セズ

第六條 參加申込百頭ニ達シタルトキハ申込ヲ締切ルコトアルベシ

第七條 參加申込ヲ受理シタルトキハ其旨本部ヨリ通知スルモノトス、參加申込ヲ受理セザルトキモ亦同ジ

ヨリテ出發點ヲ通過スルコトヲ要ス

- 一、發走點ニ於ケル進路順ハ當日抽籤ニ依リテ之ヲ定ム
- 一、競走中前者ヲ追越ス場合ハ前者ノ外側ヲ通ルコトヲ要ス
- 一、出發ノ合圖ハ赤旗ニヨリテ之ヲ行フ
- 一、出場ノ合圖ヲ爲シテヨリ五分以内ニ出場セザルモノハ棄權ト看做スコトアルベシ
- 一、指導者落車シ又ハ犬ガ逸走シタル場合ニ於テハ事故發生ノ地點ヨリ競走ヲ連續スルコトヲ得
- 一、失格條項左ノ如シ

(イ) 屢々速歩以外ノ歩様ヲナシタリト認メタルモノ (ロ) 速歩以外ノ歩様ヲナシ速度ニ利益ヲ得タリト認メタルモノ
 (ハ) 速歩以外ノ歩様ニテ決勝點ニ入りタルモノ (ニ) 凡テ他ヲ妨害シ若クハ妨害シタリト認メタルモノ

準々決勝

- 一、豫選各組ノ第一席ヨリ第三席迄ノ犬ハ準々決勝ニ出場スル資格アルモノトス
- 一、競走々路ハ約二千米トス
- 一、實施要領ハ豫選ニ準ズ

準決勝

- 一、準々決勝各組ノ第一席、第二席ノ犬ハ決勝ニ出場スル資格アルモノトス
- 一、競走々路ハ約二千米トス
- 一、實施要領ハ準々決勝ニ準ズ

決勝

- 一、準決勝各組ノ第三席迄ノ犬並ニ第四席犬中記録上位ノ犬一頭ハ決勝ニ出場スル資格アルモノトス
- 一、競走々路ハ約四千米トス
- 一、實施要領ハ準決勝ニ準ズ

附表 第二 (目次添附)

3

高級副官
委任
決行指定

決裁指定

保存期限

大臣 委		大臣 委		大臣 委	
局長	主務	局長	主務	局長	主務
次官	高級副官	次官	高級副官	次官	高級副官
參與官	書記官	參與官	書記官	參與官	書記官
審案	筆記者	審案	筆記者	審案	筆記者
主務課員	主務副官	主務課員	主務副官	主務課員	主務副官
官房御用掛		官房御用掛		官房御用掛	
課長	局長	課長	局長	課長	局長
決行後	決行後	決行後	決行後	決行後	決行後
昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日
昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日
昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日	昭和三十七年三月七日

壹第肆八三號
書籍謹呈方一件
主命館大學

政務次官回付
決裁前後連帶
課名

拾年保

決行(決裁)後
回覽課名

昭和三十七年三月七日

大臣官了
財團主命館大學ノ通牒
拜啓

二月四日附現役陸軍大將宛書籍謹呈方
二閣ニ御申越有之候處現役陸軍大將
ハ別紙ノ通ニ付甚多勝手十カ方貴方ヨリ
直接各本人宛御送達御取計相成
度候

敬具

昭和拾七年貳月七日



陸軍大將 伯爵寺 內 壽 一 東京市赤坂區丹後町七七

陸軍大將 杉 山 元 東京市世田谷區北澤二ノ三一

同 西 尾 壽 造 東京市麻布區箕輪町六七

同 畑 俊 六 東京市世田谷區太子堂一二三二

同 梅 津 美 治 郎 滿洲國新京關東軍司令部

同 山 田 乙 三 東京市杉並區井荻一ノ三七

同 蓮 沼 蕃 東京市澁谷區代々木富ヶ谷一五〇四

同 岡 村 寧 次 東京市淀橋區角筈三ノ一八九

同 板 垣 征 四 郎 朝鮮京城 朝鮮軍司令部

同 土 肥 原 賢 二 東京市杉並區天沼二ノ三八五

同 東 條 英 機 東京市麩町區永田町 陸軍大臣官舎

第四

昭和十七年二月四日



京都市上京区廣小路寺町東ノ中馬番所

財団法人 立命館大学



陸軍大臣官房御中

書籍贈呈方御願の件

拝啓 存別紙説明書通り、左記書籍老部より、
陸軍大臣閣下及び現役各陸軍大将閣下へ謹呈
致度候旨付御察務中恐隔りに到り、有之候と特
御便宜の賜ふ所共、御手元へ送達方御取計と願
上度就、何部送付可然、御通難相煩、
度御察申上候也

進下萬一右未夕送達下市取計上成下難中場念

上各尊名並：御宿所佛通報下廿七候標致度

引與又皇族各宿家：八列：献上、手配致居

新修間市合：並下廿七手申隊候也

新修間市合：並下廿七手申隊候也

一帝國憲法概論 立命館大學教授里見岸雄著

立命館發行

立命館發行

立命館大學

立命館大學

立命館大學

立命館



説明書 (巻末)

「帝國憲法概論」の著者星見奉雄ハ曾ラ千二百頁ノ「國体法」の研究シテ公ケシ大ニ学界ニ貢獻セシモノニテ、立憲館館長中川山十郎ノ理想タル禁衛隊精神ヲ以テ、共和國教育ノ根本義ヲ示シテ其ヲ賛成シ、之命館大学ノ教授トナリ、其特種教科書トシテ、特ニ本書ヲ刊行スニ到リ、是レ日本憲法ハ福外國ノ君主主義ニ對シテ、法ハ大ニ其趣旨ヲ異ニシ、我國体獨特ノ成典ナルヲ示シ、闡明シ、實ニ國体明徴ノ上ニ於テ好適ノ教育資料ナルコトヲ信ス

立憲館館長 中川山十郎

立憲館 編輯

第一編 総論

第一章 日本憲法制定史要

第二章 日本憲法學の誕生と二大系流の對立

第三章 帝國憲法の性質

第四章 帝國憲法の特質 (他省署)

第五章 基礎論

第六章 帝國憲法の範圍 (他省署)

第七章 國體法論

第八章 日本國體の概観 (他省署)

第九章 國體法各論

第十章 天皇神聖 (他省署)

第十一章 政府法論

第十二章 皇室及之羽翼賛揚 (他省署)

第六條 政体法各論の一

第二條 日本臣民の權利義務

第三條 帝國議會

第四條 國務大臣及樞密顧問 (他、省署)

第七條 政体法各論の二

第一章 帝國議會の組織と其の作用

(他、省署)

昭和17年5月2日

文書

No.

老田金三



陸軍大臣官房下中



2.29

内務省

拝後付寄「帝大憲法概論」謹至了下所
内務省に於て修及内務省中より了り
内務省に於て修及内務省中より了り
内務省に於て修及内務省中より了り
内務省に於て修及内務省中より了り
内務省に於て修及内務省中より了り



東京市麹町区永田町
陸軍省

陸軍大臣官房

馬中

殿

入東町寺路小廣區京上市郡京

版出書圖

部版出館命立

番二六八四上話電 } 所寄書東京
番四四九六二號大座口番派 }
一ノ二番座區橋京市京東 } 所寄書東京
番二六三五七京東座口番派 }

保存期限

決裁指定

高級
委任

決行指定



政務次官
回付
決裁前
連帶
課名

決行(決裁)後
回覽
課名

受領
番號

受領番號
壹第四八三號 其一

起元廳(課)名

主命館大學

件名

書籍護呈方、件

大臣

委

委

政務
次官

參與官

書記官

審案
筆記者

次官

高級
副官

主務副官
官房御用掛

主務
局長

主務
課長

主務課員

主務局
受領
提出

昭和
年
月
日

大臣官房
受領
了結

昭和
年
月
日

決行(決裁)後
回覽

局長

課長

連帶

局長

課長

主

頁

大臣官房財團法人生命館大學へ通牒
拜啓

二月二十一日附書籍籍謹呈方に關し御申越有之
候豫豫、後備役大將の住所氏名は別紙の
通に付御通報申上候

草々

昭和拾七年貳月廿五日

三木



陸軍大將

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

井上 幾太郎

東京市中野區小瀨町四四

鈴木 孝雄

淀橋區柏木三ノ四一三

菅野 尙一

杉並區松庵北町九二

岸本 鹿太郎

中野區天神町五

磯村 年

澁谷區千駄ヶ谷町四ノ六一六

吉田 豐彦

澁橋區下落合三ノ一二四八

林 仙之

世田谷區大蔵町一八三六

緒方 勝一

牛込區若松町七七

菱刈 隆

赤坂區青山高樹町一二ノ七號

松井 石根

熱海市伊豆山奥鳴澤八二九

岸本 綾夫

東京市杉並區堀之内一ノ一四一

小磯 國昭

麻布區森元町一ノ二七〇

中村 孝太郎

芝區白金今里町一〇六

多田 駿

澁谷區八幡通三ノ一〇

文

卷四三



昭和十七年二月三日

系部系上系区廣士階寺所系入

立命館女子部 立命館出版部



陸軍大臣官房内中

書籍謹呈方に就て再度申致す仰

拝啓去る甲日付書面にて現役陸軍大将、左記

書籍謹呈方に就て内務申上候処早速去る芳名

申通報下呈れ宜下難指内礼申上候 扱又其節

一度に内務申上られは如部存する所の實に其後

又縁備後部の上存在部に備置のるゝ候

三子... 錄備後備全起... 其各並... 可... 報... 中... 存... 記

一帝國憲法概論 立憲館 太子教授 里見岸 雄
立憲館 發行



立憲館 1.

三月六日

長尾

河野

閱

拾年保

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

又四三

陸軍省 陸軍部 17.2.20 陸軍省 陸軍部

東亞醫學會設立ノ件

昭和十七年二月二十日

東亞醫學會日本部會長 林 春雄

陸軍大臣

東條英機

一 東亞醫學會準備委員代表宮川米次ヨリ御連絡申上置候
 東亞醫學會ハ本月十八日結成シタルニ付附設ノ業務上ニ付
 種々御指示並ニ御援助ヲ賜ハリ度此段奉懇願候 敬具
 尚右會役員ハ左記ノ通りニ御座候
 一 東亞醫學會會長 京都帝國大學名譽教授 森 島 康 太
 (本年度限り)

陸軍省 陸軍部 17.2.27 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 17.2.25 陸軍省 陸軍部

日本醫學會

全會幹事長 東京帝國大學教授

宮川 米次

東京醫學會日本部會會長 厚生科學研究所長

林 春雄

大日本部會幹事 東京帝國大學教授

東 龍太郎

千葉醫科大學講師
陸軍軍醫少將

森 島 侃一郎

東京醫學會並ニ全會日本部會事務所

東京市神田區神保町二丁目十番地 同仁會內

以上

牛込区市ヶ谷

陸軍省

陸軍大臣東條英機殿



第 五 號

(裁決) 行決 覽 回 後	帶 連		決 行 指 定	決 裁 指 定	保 存 期 限
	長(部)局	長(部)局			
			大 臣	件 名	番 號
			官 次	受 領	
長 課	長 課	情 報	官 次 務 政	真 旅 貸 與 = 関 スル 件	
			長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參	起 元 應 (課 名) 東 京 日 日 新 報 社	
			長 課 務 主 官 副 官 主 務 書 記 官	17.3.8 報 道	
			房 官 巨 大 課 局 務 主	審 案 筆 記 者	
			了 結 領 受 出 提 領 受 號 番	陸 軍	
			昭 和 年 三 月 四 日	昭 和 一 七 年 二 月 二 八 日	
			昭 和 年 三 月 七 日	昭 和 一 七 年 三 月 四 日	

政務官 書記官 回付(決行前)

(決行後)



官 本

陸普 副官ヨリ大坂毎日新聞社取締役會長高石真五郎へ通牒
 貴社主催陸軍少年兵展覽會ニ左記ノ通兵格貸與方
 取計ハレマランニ付承知相成度

追テ本件ニ要スル一切ノ経費並ニ貸與兵格保管ノ責ハ
 貴方ノ負擔ニ付申添フ

左 良

品 目	員 数	貸與期間	備 考
中 戰 車 (武裝共)	一	昭和七年 自 三月一日	
輕裝甲車 (武裝共)	一	至 三月十日	

陸普第一二九〇號 昭和拾七年貳月廿八日

陸普 副官ヨリ陸軍兵格本部次長へ通牒
 大坂毎日新聞社主催陸軍少年兵展覽會ニ左記ノ通兵格貸
 與方取計ハレ度依命通牒ス

追テ本件ニ要スル一切ノ経費並ニ貸與兵格保管ノ責ハ

陸軍

借用者ノ負擔ニ付申添

左記

品目	員數	貸與期間	會場
中敷車 (武裝車)	一	昭和三十七年 自三月一日	上野松友屋
輕裝甲車 (武裝車)	一	至三月十二日	

陸普第一二九〇號

昭和拾七年貳月廿八日



陸軍大臣 東條 英機閣下

御 願



東京市麴町區有樂町一丁目十一番地

昭和七年 貳月廿七日

大阪毎日新聞社 取締役會長

高石眞五郎



陸軍大臣 東條 英機閣下

輝く第卅七回陸軍記念日慶祝陸軍少年兵
展覽會戰車御出陳の件

首題の件に關し本社主催にて來る三月三日より同十一日まで上野松坂屋
に於いて「陸軍少年兵展覽會」を開催仕り候に就いては國民の軍事思想
普及、銚後國民の士氣昂揚に資し度く左記期間中中戰車一輛、輕裝甲車
一輛の御出陳を願ひ度く此段及御願候

記



一、會場	上野松坂屋
一、名稱	陸軍少年兵展覽會
一、主催	東京日日新聞社
一、拜借期間	昭和十七年三月一日より同月十二日まで
一、拜借品目	中戦車一輛、輕装甲車一輛

以上

1001



東京日日新聞社

東京日日新聞社
大田区南大田
昭和十七年三月一日

東京日日新聞社



第 六 號

注意

(本審案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

拾年保

保存期限

三年

決裁指定

局長

決行指定

大臣				件名	番 受 號 領	政務次官 回付
局長	主務	次官	政務次官	展覧會出品資料貸與ノ件	壹千八百九号	決裁後 連帶 課名
主務局長	高級副官	參與官			起元廳(課)名	朝日新聞社
主務課長	主務副官 官房御用掛 計	書記官			決行(決裁)後 回覽課名	
主務課員		審案 筆記者				

陸軍

陸

普副官ヨリ朝日新聞社長村山長興等へ通牒

豫テ出願ニ係ル貴展覽會出品資料トテ別紙

一通リ貸與方認可セラレタル付承知相成度

進テ貸與資料保管ノ責負並所要經費ハ貴方

ノ員權ニ付申添候

陸普第一三〇三號

昭和拾七年三月五日

陸

普副官ヨリ技術本部總務部長へ通牒

左記展覽會ニ對シ出品物トテ別紙一通リ貸與

方認可セラレタル付可然取計ニシテ依命通牒ス

進テ貸與資料保管ノ責負並所要經費ハ

主催者側ノ員權ニ付申添フ

左記

一、名称、躍進陸軍展覽會

一、主催、朝日新聞社

陸軍

一、會期 銀座 松屋

一、會期 自三月六日
至三月十五日

一、責任者 朝日新聞社長村山長興等

陸普第一三〇三號 昭和拾七年參月五日

(3)

易
第一八六九

昭和十七年二月廿八日

東京市麴町區有樂町二丁目三番地



朝日新聞社長

村山 長



陸軍大臣

東條 英機 殿

御 願

時下益々御清祥の段奉慶賀候

陳者今般第三十七回陸軍記念日を迎ふるに當りわが陸軍創設の初より日清日露兩戰役を

經て支那事變より今次の大東亞戰爭に至る世界最強の帝國陸軍躍進の跡を偲ぶと共に廣
大なる戰線に勇戰敢闘し威武を全世界に宣揚しつゝある陸軍の威容を豊富なる資料に依

り展示し、大東亞戦争完遂のためにわが陸軍に對する銃後國民の認識を深くし併せて士氣昂揚を期するため弊社は別紙要項により「躍進陸軍展覽會」を開催仕度候間右趣旨御諒察の上特別の御詮議を以て左記品目御貸下相成度此段及御願候也

記

①
技術本部御所藏

銃 劍	二
拳 銃	二
九九式輕機關銃	二
九九式小銃	一
機關砲	一
歩兵砲	一
重投擲彈	一
輕迫擊砲	一

易

陸軍大臣 第八一九九

昭和十七年二月廿八日

東京市麴町區有樂町二丁目三番地



朝日新聞社長

村山 長



陸軍大臣

東條 英機 殿

御 願

時下益々御清祥の段奉慶賀候

陳者今般第三十七回陸軍記念日を迎ふるに當りわが陸軍創設の初より日清日露兩戰役を

經て支那事變より今次の大東亞戰爭に至る世界最強の帝國陸軍躍進の跡を偲ぶと共に廣

大なる戰線に勇戰敢闘し威武を全世界に宣揚しつつある陸軍の威容を豊富なる資料に依

日露戦争頃 ” ” ”

落下傘 二

落下傘兵被服 二

糧秣本廠御所藏

セロハン飯

携帶食糧

給水器具

砲隊鏡	二
重機關銃	一
野戰測遠器	一
火焰放射器	一
× 小型無線器	二
✕ 音源表定器	二
航空本部御所藏	
飛行機機關銃	一
爆彈模型	二
被服廠御所藏	
服裝	
明治初年頃における陸軍軍裝 將校及び兵 各一揃	
日清戰爭頃	〃
〃	〃
〃	〃

躍進陸軍展覧會要項

一主催 朝日新聞社

一後援 陸軍省

一會場 銀座松屋

一期日 三月六日—十五日

一陳列内容(案)

一趣旨

一軍人勅諭

陸軍の創設

徴兵令の制定

軍制、軍備の整備

日清、日露、兩役當時

(繪畫及び日露役直後の觀兵式デオラマ)

一戰陣訓

一近代戰は立体戰である

一 大東亞戦争と機械化された各兵科

1 野戦の華

デオラマ

2 精悍無比の騎兵

デオラマ

3 正確必中の砲門

デオラマ

4 機械化された輜重隊

デオラマ

5 勇敢無比の架橋破壊作業

デオラマ

6 戦果の華荒鷲

デオラマ

7 地上の荒武者鐵牛部隊

デオラマ

8 世界に誇る戦陣醫學

寫眞、繪畫

一 列國より注視的「敵前上陸」

一 日本獨得の戦法「夜襲」

二 要塞攻防戦「皇軍の前に難攻不落なし」

一 落下傘部隊の活躍

パノラマ

一 ジヤングル地帯を征く

一 各方面の最高指揮官

一 近代戦と宣傳

1 戦争と寫眞

寫眞又は繪畫

2 戦争と映畫

〃

3 戦争と放送

〃

4 戦争と文藝

〃

5 戦争と繪畫

〃

一 日本は何故強いのか

1 忠君愛國

2 武士道

一 明日の陸軍

1 人物の養成

陸軍各學校、青年學校、中等學校、大學、專門學校の

軍事教練（精神、體育、學術、技術）

2 科學陣の強化

寫眞

別紙

躍進陸軍展覽會出品兵器品目員數表

官房控

陸

軍

品目	員數	摘要
九九式小銃	一	
九九式輕機	一	
九二式重機	一	
機關短銃	一	
八九式重擲	一	
九七式曲射步兵砲	一	
七糎砲隊鏡	一	
野戰重測遠器	一	
九三式小火焰發射器	一	

陸普

副官長 善通寺師團參謀長 憲兵

司令部本部長 善通寺俘虜收容所長

俘虜情報局長 冠通様

左記、者、三月十二日善通寺俘虜収

容所、視察ヲ許可セラルルニ付可然取計

ニ相成度

迄テ視察ノ際俘虜情報局長官一名同行

可致ニ付申添フ

左記

陸普第一三二七號

昭和拾七年參月六日

赤十字國際委員會

陸軍

駐日代表

ドクトル、エス、パラグイチニ
(横濱市中区本牧三ノ七ニニ)

通察先

善通寺師團

憲兵司令部

(善通寺俘虜收容所、俘虜情報ハハ参考)

到官ヨリ赤十字國際委員会駐日代表

「ドクトル、エス、パラグイチニ」宛回答

三月三日附出願ニ係ル首題ノ件許可相成候
條及回答候也

迄テ視察ノ際俘虜情報事務官一名同行
可致ニ付申添入候

陸普第一三二七號

昭和七年三月六日



陸軍

發信地

電報譯

三月五日 午前午後

時分 時分

俘虜情報局長宛

發信者

善通寺師範長

善師電第二五〇號

俘虜情報一八號返

當方差支ナキニ視察者、俘虜收容所

出入ニ關シ豫メ陸軍大臣ノ許可方配慮

アリ



(假譯)

俘虜收容所視察許可願

赤十字國際委員會

駐日代表 ドクトル・エフ・バラヴィチニ

橫濱市中區本牧三丁目七三二

私儀赤十字國際委員會ノ電命ニ依リ三月十二日善通寺俘虜收容所ヲ
視察致度候間御許可相成度此段及御願候也

昭和十七年三月三日

陸軍大臣 東條英機 殿

第八九〇



(田中稿)

3.3.42.

A Son Excellence
Le General Hideki Tojo,
Ministre de la Guerre
Tokyo

Monsieur le Ministre,

Conformément aux instructions télégraphiques
que j'ai reçu du Comité International de la Croix Rouge,
j'ai l'honneur de prier Votre Excellence de bien vouloir
m'autoriser à visiter les prisonniers de guerre au camps
de Zentsuji au 12 mars 1942.

En remerciant d'avance Votre Excellence de
son obligeante reponse, je vous prie d'agréer, Monsieur
le Ministre, les assurances de ma très haute considéra-
tion.

Dr. F. Taravicini

Délégué du Comité International
de la Croix Rouge

第八號

子

保存期限
 決裁指定
 局長委任
 決行指定

大臣 委		事務局長	次官	政務次官	件名 工場寫眞撮影ニ關スル件	番受 壹第九五八號	受領 號
次官							
局長		局長		主務課長	起元廳(課)名	東京日日新聞社	
局長		局長		主務課員	決行(決裁)後 回覽課名		
局長		局長		主務課員			
局長		局長		主務課員			

政務次官 回付

決裁前連帶
決裁後課名



決行(決裁)後
回覽課名

手印

陸軍省

陸普 副官ヨリ東京日日新聞社事務取締役七海又三郎へ通牒

一月七日附當省大臣宛願出ニ係ル首題ノ件秘密個所ヲ除キ許可セラレタルニ付現場軍
部監督官ノ指導ニ從ヒ細部連絡ノ上撮影セラレ度

追テ公開前檢閲可致ニ付承知相成度

陸普第一四二二號

昭和拾七年拾月拾壹日

陸普 副官ヨリ兵器本部總務部長へ通牒

首題ノ件東京日日新聞社當務取締役七海又三郎ヨリ願出有之同社發行月刊雜誌「水」

ムライフ」ニ掲載ノ爲左記工場内ニ於ケル自動車製作風景ヲ撮影致度旨願出有之秘密

個所ヲ除キ許可セラレタルニ付依命通牒ス

准
記

横濱市神奈川區寶町一丁目番地

陸普第一四二二號

日産自動車株式會社

昭和拾七年拾月拾壹日

陸軍

陸普 副官ヨリ日産自動車株式会社々長へ通牒

首題ノ件ニ關シ東京日日新聞社常務取締役七海又三郎ヨリ願出有之秘密傾度ヲ除キ監督官指導ノ下ニ貴社工場撮影方許可セラレタルニ付可然取計レ度候

陸普第一四二一號 昭和拾七年五月廿一日



寫真撮影許可
九五八

寫真撮影許可



昭和十七年二月七日

陸軍大臣

東條 英機 閣下

左記寫真撮影仕度御詮議御許可相成度此度及御願候也

左記

目的 東京日日新聞社發行月刊雜誌「ホームライフ」掲載

一場 所 横濱市神奈川區寶町二番地

日産自動車製作風景



七海又三郎



一、方 法

普通寫眞撮影

一、使用器具類ノ名稱

ニユークラツプ（大名詞型）及ライカ・手札型パルモス

一、日 時

自昭和十七年二月八日至全年全月十八日ノ間ニ於ケル晴天ノ二日

一、作業者ノ住所氏名

荏原區東戸越五ノ三八 永田 一脩 四十才

豊島區堀ノ内四一ノ一 藤村 英一 廿二才

一、作業ノ場所

東京 日日新聞社

一、員 數

未 定

昭和十七年三月以上

第九號

9

決行指定



決裁指定



保存期限

大臣 委		局長 主務		次官		政務 次官	
局長		主務 課長		高級 副官		參與官	
局長		主務 課員		主務 副官 官房御用掛		書記官	
局長		主務 課員		主務 副官 官房御用掛		審案 筆記者	

主務局長
昭和三十七年三月十日
報審第四五號

局長
昭和三十七年三月十日
昭和三十七年三月十日

局長
昭和三十七年三月十日
昭和三十七年三月十日

受領番
壹第八九五九號
工場撮影ニ關スル件
起元廳(課)名
日本映畫社

政務次官
參與官
回付

決裁前後連帶
課名



決行(決裁)後
回覽課名

拾年保

301

301

陸普 副官ヨリ日本映畫社文化映畫部長星野辰男へ通牒

三月一日附當省大臣宛願出ニ係ル首題ノ件秘密個所ヲ除キ願出ノ通り許可セラレタル

ニ付現場軍部監督官ノ指示ニ從ヒ細部連絡ノ上撮影セラレ度

追テ公開前檢閲可致ニ付承知相成度

陸普第一四二〇號

昭和拾七年參月拾壹日

陸普 副官ヨリ兵器本部總務部長へ通牒

首題ノ件東京市京橋區銀座西八丁目九番地社團法人日本映畫社文化映畫部長星野辰男

ヨリ左記ノ通り映畫撮影方願出有之秘密個所ヲ除キ許可セラレタルニ付依命通牒ス

左記

一、製作映畫名 進め産業部隊

一、撮影場所 神奈川県川崎市池手町二丁目五〇番地
株式会社川崎工場

一、撮影場面 工場内ノ旋盤機械一部分

二、撮影者 日本映畫社文化映畫部員

陸普第一四二〇號 昭和拾七年參月拾壹日

陸普 副官ヨリ株式會社池貝鐵工所社長へ通牒

今般社團法人日本映畫社ニ於テ文化映畫「進め産業部隊」製作ノ爲貴社工場内ノ一部
撮影方願出有之秘密個所ヲ除キ監督官指導ノ下ニ撮影ヲ許可セラレタルニ付可然取計
相成度候

陸普第一四二〇號 昭和拾七年參月拾壹日



第九五九



昭和十七年三月一日

東京市京橋區銀座西八丁目九番地

社団法人 日本映畫社文化映畫部

部長 星野辰

陸軍大臣 東條英機 殿

映畫撮影許可願

今般弊社儀製作ニ力、ル産業報國會依託「進め産業部隊」ニ左記要項
ニ依リ撮影致度候條御許可相成度此段及御願候也

記

一 撮影場所 神奈川縣川崎市戸手町貳丁目五拾番地

池貝鐵工所機械部川崎工場

一 撮影場面 ○工場内部旋盤機械一部分



一 撮影日時

至昭和十七年三月十日

午前九時ヨリ五時迄

(但シ雨天ノ場合ハ順延)

一 撮影目的

産業報國會依託「進め産業部隊」撮影ノタノ

一 撮影従業者

東京市京橋區銀座西八丁目九番地

社団法人 日本映畫社文化映畫部

製作責任者

笠井秀浩

演出者

佐藤博一

演出補助者

尾山新吉

撮影者

積田貞雄

撮影補助者

富澤昌一

照明者

駒形英作

坂本榮一

一 成果物ハ貴官並ニ海軍工場監督官ノ檢閲ヲ受クルモノトス

八三九

三月十四日

第一一八號

10



閱

拾年保

陸軍部第一五八



昭和六年四月版

炭業月報

第一卷

自第一卷第一號至第五號



北支那開發株式會社

陸軍

(裁決) 行決 覽 回 後	帶 連	決行指定	局長委任	決裁指定	永久	保存期限
						番 號
長(部)局	長(部)局	大臣	大臣	大臣	大臣	壹第 五六四 號
劉普		委	委	委	委	保護自動車一部構造變更, 件
		官 次 官 次 務 政	官 次 官 次 務 政	官 次 官 次 務 政	官 次 官 次 務 政	起元應(課名) 鈴木長之助外二名
長 課	長 課	局長務主	官副級高 官與參	書記官	書記官	
		劉普 第一四三三 號	局長務主	主務	主務	
			員課務主	大挑	大挑	
			房官臣大	課局務主	課局務主	
			了結領受	出提領受	出提領受	
			昭和 年	昭和 年	昭和 年	
			三月十四日	三月十日	三月十日	

政務官 書記官 回付(決行前)

(決行後)

審案 筆記者



陸

軍



陸普

鈴木長之助外二名へ指令

(三月六日) 附出願ニ係ル保護自動車内種(第二四六八號)ニ木炭瓦斯
發生機取付ノ件許可ス

但シ揮發装置其儘存置シ瓦斯發生爐添可^加装置ハ収用其他際
ハ取^陸出スヘシ

村上義 陸普第一四三三號 昭和拾七年參月拾貳日

注意 但シ鈴木文助行ニハ()内ヲ左ノ通改メ作ル

(二月四日)

第二四六六號

(木炭) 鈴木文助

(二月四日)

第二五〇四號

(アセチレン) 村上義

水

陸

陸普

(陸普)

陸普

陸普

陸普



知事
五三四號



株式会社



保護自動車構造變更申請書

一、丙種自動車保護番號、第二四六八號 壹輛

右ハ今般瓦斯倫燃料ニテ使用中ノ處「三葉式木炭瓦斯發生機」取付致候間軍用自動車補取法施行細則第九條ニ依リ此段及申請候也

昭和十七年 二月 十四日

京城府南米倉町一九二番地

鈴木長之助

陸軍大臣 東條英機 殿

保護六輪自動車構造變更申請書

一、丙種保護自動車 保護番號 式四六六號

志 補

右ハ今般瓦斯備燃料ニテ使用中ノ處「キ」七式木炭發生機」取付致候間
軍用自動車補助法施行細則第九號ニ依リ此段及申請候也

昭和拾七年貳月四日

住 所

東京市南區大目通三丁目三番地

氏 名

鈴木文助



陸 軍

大 東條英機 殿

保護六輪自動車構造變更申請書

一丙種保護自動車保護番號第二五〇四號 一輛

右ハ今般瓦斯倫燃料ニテ使用中ノ處「後藤式アセチレン瓦斯發生爐」取付致度候間軍用自動車補助法施行規則第九號ニ依リ此段及申請候也

昭和十七年二月 四 日

陸軍大臣 殿

京城府青柳町十一番地
朝鮮運送株式會社
社 義 上



第 一 號

12

三月十四日



長



陸軍省 第一號

六八九



組動第二四號

昭和十七年三月五日

大政翼贊會事務總長

横山助成

成

陸軍次官 殿

三月八日ノ大詔奉讀日實施項目ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通り道府縣並六大都市支部長宛通牒致置候ニ付
テハ實施上特別ノ御配意御協力賜リ度此段及御依頼候也





組動第二四號

昭和十七年三月五日

大政翼贊會事務總長 横山助成

大政翼贊會

各道府縣

支部長 殿

六大都市

三月八日ノ大詔奉戴日實施方策ニ關スル件

三月八日ノ大詔奉戴日ハ爰ニ決定シタル實施要項ニ於ケル實施項目
第一項乃至第四項ノ實行ヲ期スルト共ニ更ニ別紙實施方策ニ基イテ
實施スルコトニ決定相成候處當日特ニ午後七時四十分ヨリ東條内閣
總理大臣ノ翼贊選舉ノ貫徹ニ關スルヲジヤ放送有之候ニツイテハ國
民齊シク之ヲ聽取セシムルヤウ周知徹底方ニ付特ニ御配慮相成度
此段及通牒候也

追而本運動ノ徹底ニツイテハ夫々ノ機關ヲ經テ御配意相成ルコト
ト存ジ候得共特ニ今回ハ期日ノ切迫ノ次第モ有之候ニツキ實情ニ
即シ隣保班及ビ部落會、町内會ヘノ通達ニツイテハ最善ノ方途ヲ
講ジ本運動ノ實踐ニ萬全ヲ期セラレ度
尙大詔奉戴日ニ於ケル常會ノ開催ニツイテハ爰ニ組助第一〇號第
二項ヲ以テ通牒致シ候通り強制ニ亘ラザルヤウ御留意相成度キモ
支障ナキ場合ハ成ル可クコレヲ開催セシムルヤウ御取計相成度
本實施方策ニ於ケル「承諾必謹」ノ講話ノ放送ハ左ノ如ク決定
候條コレガ周知方重ネテ御取計相成度

「承諾必謹」ノ講話

三月八日午前七時三十分ヨリ二十分

大政翼贊會總務

葛

生

能

久

三月の大詔奉戴日実施方策

三月の大詔奉戴日は、全國民が一心一體更に「承諾必謹」の精神に徹せんが爲、左記實施方策により「承諾必謹」の講話を放送すると共に、時局當面の最重要問題たる眞實選舉の貫徹に積極的協力を求めんとするものである。

實施方策

一、「承諾必謹」の講話

三月八日午前七時卅分より廿分「誓の時間」に於て承諾必謹の講話を放送し、全國民をして「承諾必謹」の精神に一層徹底せしむること。

二、實踐事項解説の放送

三月八日午後七時四十分より廿分「常會の時間」に於て左記の放送をなすこと。

(1) 大詔に應へ奉る眞實選舉の貫徹について

大東亞戦争の完遂を目標とする翼賛議會の確立を期して執行せらるゝ今次の衆議院議員總選舉に際して、大詔に應へ奉るの固き決意の下に、翼賛選舉を全うするの自覺を促さんとするものである。

第一三一號

13



執行指定

局長委任

決裁指定

十年

保存期限

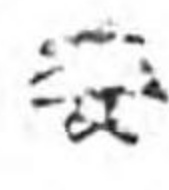
大臣官房
受領
昭和三年三月十七日
三月十六日

主務局長
受領
昭和三年三月十七日
經被甲第三五號

大臣



次官



政務次官

參與官

書記官

審案
筆記者

主務局長



主務課長



主務課員

高級副官



主務副官
官房御用掛



件名 日本油脂株式會社ニ外國人招聘ニ關スル件

受番 壹第六五〇号

起元應(課)名

陸軍省
陸軍部
日本
日本油脂株式會社
手印
陸軍省
陸軍部
工務課
21

政務次官
參與官
回付
決裁前後
連帶
課名

決行(決裁)後
回覽課名



昭和拾七年三月廿七日

陸



副官ヨリ陸軍被服本廠長へ通牒

(陸 密)

二月十六日附被秘第三七六號申請ノ通認可セラレタルニ付依命
通牒ス

陸軍第五八八號 昭和拾七年三月九日



十 十

日本陸軍被服廠長ニ於テ被服入册ノ手續ニ關スル事

陸軍被服本廠



秘

工政課經由

被秘第三七六號

日本油脂株式會社ニ外國人招聘致度件申請

昭和十七年二月十六日

陸軍被服本廠長 西原

陸軍大臣 東條英機 殿

當廠管理工場タル首題工場ヨリ別紙ノ通り申請有タルニ付認可セラレ度

追而本件ハ客年十二月二十七日陸密第四〇二三號ニヨリ工場參觀ヲ認可セラレタルモノ

ニシテ該社技術者ヲシテ質議應答 (別表ノ通りトス) セシメタルモ該人ハ油脂工業ニ卓

越セル識見ト實務ノ體驗ヲ有シ製油技術導入ノ見地ヨリ差支無キモノト參思考セラル

尙防諜上ニ於テモ懸念スヘキ點無キモノト認メラルルニ付申添フ

別紙
公當課 庶務課
三月十二日 衣糧課

貢

17.2.21

陸軍省
17.2.20
第12
器材課

538

軍務

衣糧

王發第 八四號

陸軍被服本廠經由

陸軍被服本廠經由

外國人工場ニ招聘致シ度件願

昭和十七年二月九日

陸軍大臣 東條英機 殿

東京市王子區豐島町丁目一三番地ノ六

日本油脂株式会社

事業管理 崎金次郎



竊ニ昭和十六年十二月二十七日附陸密第四〇二三號ニ依リ獨人技術者當工場參觀ノ件御許
可相成實施仕候處今般左記ノ通り同人ヲ招聘油脂製造技術ノ研究ニ從事セシメ度ニ付御許
可相成度此段奉懇願候也

左記

- 一 招聘者ノ國籍 獨逸國
- 二 招聘者ノ身分及氏名

獨逸國油脂管理所公認檢定人

Director H. Geier



工場監理
官認印



工場代表
者認印

堅崎
金次郎

エルンスト・フーゲル (Ernst Hugel)

三 招聘ノ目的

現時局下我國油脂界當面ノ最モ重要ナル課題ハ南方油脂資源就中椰子油ノ加工利用ニシテ當社ニ於テハ銳意之ガ研究ヲ進メツ、アリ 然ル處右獨人ハ過般當工場ヲ參觀セシメタル際油脂工業ニ關シ廣範深奥ナル學識經驗ヲ有シ特ニ食用油脂ニ就テハ造詣深キコトヲ確認シ得タルヲ以テ今般同人ヲ當工場試驗室ニ招聘研究ニ從事セシメ食用椰子油ノ完成ヲ促進シ併テ椰子油ノ炭化水素化ニヨル潤滑油及燃料油製造ノ實用化ヲ期セントス

四 招聘ノ期間

御許可ノ時期ヨリ一ヶ月間

五 工場内ノ出入ヲ許ス可キ範圍

應接室及試驗室ニ限ル

一 招聘許否ニ對スル工場管理官ノ意見

差支無シ

ニ 全 被服本廠ノ意見

差支無シ

水戸



經 歴 書

國 籍 獨逸國
現住所 横濱市ブルツフホテル

エルンスト・フーゲル

(Ernst Hugel)

一八八八年三月三日生

一 學 歴

ボンドルフノ小學校卒業

一九〇八年ブライスタオ州フライブルグ及コンスタンツ中學校卒業

一九〇八年フライブルグ大學ニ入學

一九一二年同校卒業 化學博士ノ學位ヲ授ケラル

一 職 業

一九一二年ヨリ一九一九年迄ライン州エメリツヒノ油脂工場ニ化學

技術者トシテ勤務

一九一九年オルデンブルク州ブラーケノ油脂工場ノ支配人トシテ勤務

一九二一年ハンブルクニテ自營

一九二二年ベルリンバマツクイメグイン株式會社油脂部顧問ニ就任
爾來其資格ニ於テ歐洲諸國南米、埃及、及ビ英領印度ニ勤務
一九四〇年獨逸國政府ノ命ニヨリ本國ガ日本帝國ヨリ購入シタル鯨
油管理ノ爲日本ニ派遣セラル

一兵 役

一九一四年ヨリ一九一六迄現役軍人トシテ世界大戰ニ參加



第一四號

三月十六日

大政翼贊會

組文第七七號

昭和十七年二月二十六日

陸軍大臣 東條英機 殿

大政翼贊會總裁 東條英機

大東亞醫事對策ニ關スル件

過般大政翼贊會主催ノ下ニ開催致候大東亞醫事對策委員會ニ於テ大東亞醫事問題諸般ニ關シ檢討協議致シ候處別紙諸事項ハ特ニ焦眉ノ急務ナルヲ以テ之ガ實現ニ關シ格別ノ御配慮相煩度此段及上申候也

中村

甲號 大日本印刷



拾年

大東亞醫學對策ニ關スル上申書

大東亞戰爭ノ大戦果ト之ニ依ツテ來ルベキ我國力ノ發展進出ヲ想ヒ大政
醫學會醫界新体制協議會處理委員會ハ去ル一月二十六日大東亞醫學懇談
會ヲ催シ總イテ二月六日及二月十三日大東亞醫學對策委員會ヲ開催シテ
大東亞ノ醫學問題諸般ニ關シ協議セシガ、左ノ諸事項ハ特ニ焦眉ノ
急務ナルヲ以テ、直ニコレヲ政府ニ上申スルコト、セリ
政府ハ右ヲ考慮セラレ速カニコレガ實現ヲ圖ラレンコトヲ望ム

一 大東亞ノ新建設ニハ行政ノ整備、産業ノ開發等ノ前提條件トシテ現
地ノ醫學衛生問題ノ解決ヲ要ス。故ニ現在軍政下ニ於テモ軍政顧問
トシテ醫學衛生ニ關シ有能建設ノ人物ヲ參加セシムルコト

一 前項ト同様ノ理由ニ基キ近キ將來現地ニ向ツテ國內醫界ノ有力者ヲ
多數動員セントスル要請ノ起ルベキハ必至ノ勢ナルヲ以テソノ際直
チニ之ニ應ジ得テ而モ混亂ヲ來サザル爲、政府ニ於テハ大東亞醫學
界一元的ニ指導スベキ設備ヲ整備シ、民間ニハ醫界ノ全能力ヲ之ニ

同ツテ呼應セシムベキ態勢ヲ準備スルコト

一 現地狀勢ノ許ス限リナルベク速急ニ有力ナル警備隊ヲ派遣シ
的統制ノ下ニ現地ニ派シ現地既設ノ諸施設ノ未ダ破壊セラレザルニ
先立チ且ツ現地ニ蒐集セラレタル參考資料ノ未ダ毀滅セザルウチニ
急務的事項ノ調査ヲナシムルコト

一 速カニ本邦警備隊ノスベテニ大東亞警備ニ關スル教育ヲ行ヒ得ル
ヨウニナシ、又南方派遣ノ空軍ノ他ニハ熱帯醫學ニ關スル再教育
ヲスルト共ニ大東亞共榮ノ根本理念ヲ完成セシムルコト

昭和十七年二月二十五日

以上

大政翼贊會總裁

東 條 英 毅

三月十七日

第一五號

15

閱

發練九號

昭和十七年三月六日

拾年保

九七三

號



未

國民鍊成

殿

陸軍省



國民鍊成所開所ニ關スル件

先般設置相成リタル本鍊成所ノ事務ハ當分ノ内左記ノ處ニテ執務致ス事
ト相成リタルニ付此段及御通知

記

事務室(右) 同
所長室(文部省敎學局敎學官室) 内線四一五番
事務室(右) 同 内線四一六番

(結)



陸軍省

牛込区市谷本村所

河

昭和

年

月

日

文部省教學局内(六階)

國民鍊成所

教學局

日

第一六一號
16

保存期限 三年
決裁指定
執行指定

大臣 委		局長 主務		次官		政務 次官		件名 映畫撮影ニ關スル件	番受 領號 七三三三號
大臣 委		局長 主務		次官		政務 次官			
局長		局長		高級 副官		參與官		起元廳(課)名	日本藥工品配給株式會社
局長		局長		高級 副官		參與官			
長課		長課		主務 副官		書記官		決行(決裁)後 回覽課名	日本藥工品配給株式會社
長課		長課		主務 副官		書記官			
主務 課長		主務 課長		主務 課員		主務 副官		審案 筆者	
主務 課長		主務 課長		主務 課員		主務 副官			
了結 昭和 年 三月 十七日		領受 昭和 年 三月 十七日		提出 昭和十七年 三月 十四日		領受 昭和 年 月 日		號番 報密第四七號	
了結 昭和 年 三月 十七日		領受 昭和 年 三月 十七日		提出 昭和十七年 三月 十四日		領受 昭和 年 月 日		號番 報密第四七號	

政務次官 回付 決裁前後連帶
衣糧 防衛
決行(決裁)後 回覽課名

拾年保

衣糧 防衛

衣糧 防衛

真木

市原

五五

陸普副官ヨリ日本薬工品配給株式会社々長古田中正彦へ通牒
三月二日附大臣宛願出ニ係ル首題ノ件秘密ニ亘ラザル範圍ニ於テ
許可セラレタルニ付各廠ト直接細部連絡ノ上撮影セラレ度
追テ公開前檢閲可致ニ付申添フ

陸普第一四九九號 昭和拾七年參月拾四日

陸普副官ヨリ糧秣、被服、需品各本廠長、東部軍參謀長

へ通牒

首題ノ件日本薬工品配給株式会社ヨリ別紙ノ通り映畫撮影方願出
ニ關シ秘密ニ亘ラサル範圍ニ於テ許可セラレタルニ付可然取計相
成度

陸普第一四九九號 昭和拾七年參月拾四日

昭和十七年三月二日

日本薬工品配給株式会社

東京市豊島区大塚一丁目
取締役社長 古田中正彦

陸軍大臣 東條英機閣下

文化映畫撮影許可申請

今般農林省後援ノ下ニ農山漁村文化協會製作、日本薬工品配給株式会社企劃ヲ以テ薬工品映畫ヲ製作シ薬工品ノ軍需民需ノ重要使命ヲ各方面ニ認識セシメ農家奮起ヲ促シ薬工品増産獎勵ノ資ニ供セントスル次第ニ御座候
就而右趣旨ニ依リ左記撮影ニ關シ特別ノ御詮議ニ依リ御許可相仰度此段奉願候也

陸軍

記

一 區域

糧秣廠 標札、倉庫ニ於ケル糧秣ノ荷造作業、荷物ノ山

被服廠 標札、夥シイ薬工品ノ山、夥シイ荷造ノ山

需品廠 標札、荷造作業、荷造ノ山

東部軍經理部 土囊（古叭ニ發ル土囊）ノ蔭カラ飛出ル兵隊

二 期日

自昭和十七年三月六日

至昭和十七年三月二十日

三 會社名及所在地

東京市麴町區大手町一丁目六番地 日本薬工品配給株式會社

昭和十七年三月二日

陸

軍

四 映畫ノ種類

十六ミリト一キ一映畫

五 撮影者

龜谷

明

正（撮影登録番號貳貳八號）



昭和十七年三月二日



陸軍大臣 東條英機 閣下

文化映畫撮影許可申請

今般農林省後援ノ下ニ農山漁村文化協會製作、日本農工品配給株式會社
企劃ヲ以テ農工品映畫ヲ製作シ農工品ノ軍需民需ノ重要使命ヲ各方面ニ
認識セシメ農家奮起ヲ促シ農工品増産奨勵ノ資ニ供セントスル次第ニ御
座候

就而右趣旨ニ依リ左記撮影ニ關シ特別ノ御詮議ニ依リ御許可相仰度此致

日本農工品配給株式會社
取締役 田中正



日本農工品配給株式會社

奉願候也

記

一區 城

糶秣廠

標札、倉庫ニ於ケル糶秣ノ荷造作業、荷物ノ山

被服廠

標札、夥シイ薬工品ノ山、夥シイ荷造ノ山

需品廠

標札、荷造作業、荷造ノ山

東部軍經理部

土囊（古叭ニ依ル土囊）ノ蔭カラ飛出ル兵隊

伴出現地検査

産業組合前ニ於ケル伴出現地検査、役員、共ニ検査將校
ヲ來ル、検査ノ状況



日本書紀古語系本三卷不